

東京都議会議員のオンラインで有権者と関わる活動量と
SNS の利用に関する関連性

2021 年 2 月 18 日

はじめに

東京都は日本の中枢として大きな役割を担っている。2020年に東京で開催予定であった第32回オリンピック競技大会(2020/東京)、東京2020パラリンピック競技大会は、昨今の新型コロナウイルスにより現状延期という判断が下された。この世界的なパンデミックによる影響は多大なものであり、私たちの生活に大きな変化をもたらした。特に、働き方の変革は生活を送る上で直接的な影響を与える。これまでも、私的にも公的にも利用されているSNSは、各人の考えや主張をするツールとして多く用いられてきた。しかしながら、対面での触れ合いを避けながら情報を発信できることから、SNSは、様々な場面でさらに需要が高まりつつある。

本稿では、都議会議員に対する調査データから、新型コロナウイルスによる活動自粛以降における、東京都議会議員のオンラインで有権者と関わる活動量とSNSの利用に関する関連性について分析を行う。

先行研究

有権者はメディアからどれほどの影響を受けるのであろうか。田中(2019)は、2015-2018年の4年間に渡り、高校3年生を対象に政治意識とメディア接触について調査している。その結果、投票行動に影響を与えている情報は、メディア情報と家族からの情報であることがわかっている。

また、渡辺(2018)により実施された「情報とメディア利用」調査の結果、Twitter, Facebook, Instagram, LINE, その他のSNSについて、16-69歳の国民全体で、いずれかのSNSを利用している人は70%であり、LINEは全世代利用が多いことが判明した。年層別に見ると、16-19歳 97%, 20代 94%, 30代 90%, 40代 81%, 50代 65%, 60代 36%と、若年層ほど利用が多く、20代以下では9割を超える。また、30代以降のSNSの利用については、Twitterの利用は3割に届かず若年層の利用が多い、Instagramの利用は4割に満たず女性若年層の利用が多い、Facebookは30代男性・30代女性のみ3割台でありTwitterとInstagramに比べると、利用者の年齢層が高いことも判明している。このことから、高齢者層のSNSの利用はLINEが中心であると考えられる。

伊藤(2017, 16)は、政治的有効性感覚の定義としてCampbell et al. (1954)の「政治過程に対して影響力を行使しようと思える感覚」を用いている。つまり、政治的疎外意識は政治的有効性感覚の低い状態であると言え、特に団塊世代と

比べて若齢世代では政治的有効性感覚が低く政治的に疎外されていると感じやすいと言える。

仮説

先述したように、本稿は新型コロナウイルスによる活動自粛以降における、東京都議会議員のオンラインで有権者と関わる活動量と SNS の利用に関する関連性について分析を行う。田中(2019)や渡辺(2018)より、若年層ほど SNS の利用が多いことが判明している。したがって、都議会議員の SNS の利用も年齢に関連があると推測される。また、達成感と今後への期待に発信者の順応度と利用度に関連はあるのかについて推測すると、リモートワーク適応度と SNS の利用において、年齢による関連は存在すると考える。

加えて、政治的有効性感覚の研究(伊藤 2017)から、人は自分が力を入れて取り組んだことにより達成感を得やすく、その逆も言えるのではないかという推測が立てられた。そこで、その達成感⇨若者のレスポンスを感受した人ほど、今後の見込みへの期待も高くなるのではないだろうか。

データ・変数、分析

調査データは、「津田塾大学中條研究室 2020年度第3回東京都議会議員調査」を用いる。上記の調査対象は、東京都議会議員 全 127 名(内、回答者は 43 名)。調査票の回収期間は、2020年10月16日から11月18日であり、回答方法は、郵送による調査票、また、ウェブサイト上(QRコードの読み取りから google フォームへ誘導)での回答も受け付けた。

また、以下は、調査データから利用した変数の尺度を説明し、表 1 としてまとめたものである。

表 1：使用する調査データとその尺度についての表

変数	調査票の質問	尺度
Q15	新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートワークという働き方がある程度普及しました。都議会議員としての活動においても、どのくらいリモートワークで対応できたでしょうか、最もあてはまる選択肢をお選びください。	リモートワークでは全く対応できない=1 リモートワークで対応できた活動はごく一部である=2 ある程度はリモートワークで対応できた=3 ほとんどリモートワークで対応できた=4
Q22-1オンライン	新型コロナウイルス感染症拡大前について、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を10としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoomでのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は10になるように割り振ってください。[オンライン]	連続変数
Q22-2オンライン	今後の見込みについて、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を10としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoomでのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は10になるように割り振ってください。[オンライン]	連続変数
Q23	ご自身のSNSなどオンラインでの政治活動を通して、街中での反応やSNS上でのメッセージなどから、若者の政治・都政への関心は以前に比べてどれくらい高まったと感じておられますか？	全く変わらない=1 どちらかといえば変わらない=2 どちらともいえない=3 どちらかといえば高まった=4 とても高まった=5
年齢	あなたの年齢をお答えください。	連続変数

以下の表 2 と図 1 から図 4 のヒストグラムは、使用したデータの記述統計量である。Q22-2 オンライン「今後の見込みについて、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を 10 としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoom でのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は 10 になるように割り振ってください。[オンライン]」という質問に対する回答は、平均が 3.2 であり、全体的にはオンラインでの活動に対する見込みの割合が低いという傾向がある。特に Q15「新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートワークという働き方がある程度普及しました。都議会議員としての活動においても、どのくらいリモートワークで対応できたでしょうか、最もあてはまる選択肢をお選びください。」では、4「ほとんどリモートワークで対応で

きた」と回答した人がおらず、標準偏差も 0.5 と小さく、回答にばらつきがない。また、Q23「ご自身の SNS などオンラインでの政治活動を通して、街中での反応や SNS 上でのメッセージなどから、若者の政治・都政への関心は以前に比べてどれくらい高まったと感じておられますか？」では、最小値 1「全く変わらない」から最大値 5「とても高まった」という回答もあるが、標準偏差が 0.9 とやや小さく、回答にばらつきがない。

表 2：使用した調査データの記述統計量についての表

	最小値	平均値	中央値	最大値	標準偏差
Q15	1.0	2.4	2.0	3.0	0.5
Q22-1オンライン	0.0	3.2	2.0	10.0	2.5
Q22-2オンライン	1.0	4.2	4.0	9.0	2.1
Q23	1.0	2.6	2.0	5.0	0.9
年齢	32.0	51.3	52.0	70.0	10.5

リモートワークでの対応度のヒストグラム

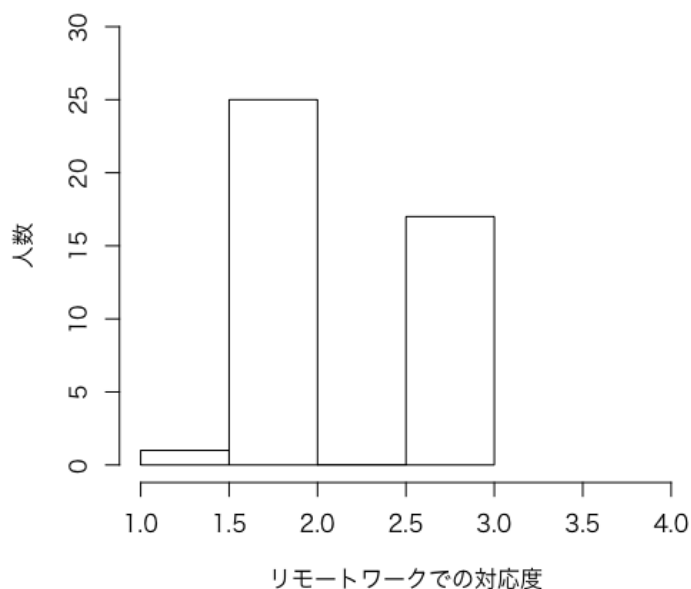


図 1：Q15「新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートワークという働き方がある程度普及しました。都議会議員としての活動においても、どのくらいリモートワークで対応できたでしょうか。」

リモートワークでは全く対応できない=1
 リモートワークで対応できた活動はごく一部である=2
 ある程度はリモートワークで対応できた=3
 ほとんどリモートワークで対応できた=4
 4 つの中から、最もあてはまる選択肢をお選びください。」についてのヒストグラム

感染症拡大前のオンラインでの活動量のヒストグラム

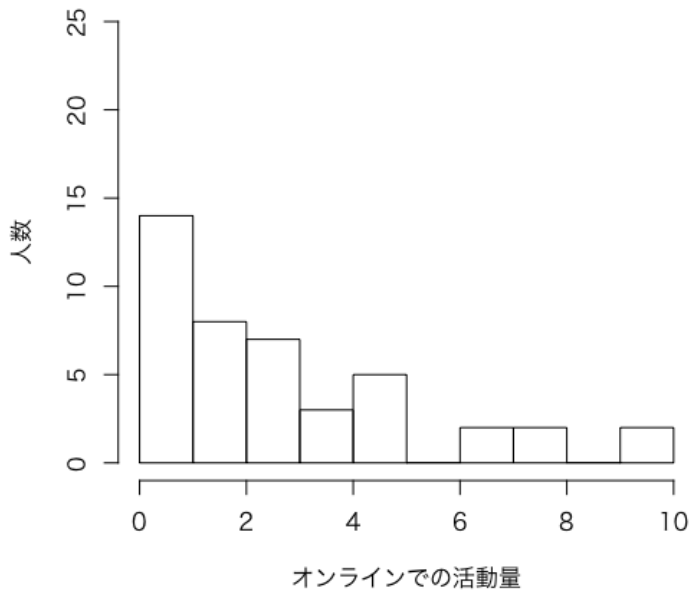


図2：Q22-1 オンライン「新型コロナウイルス感染症拡大前について、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を10としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoomでのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は10になるように割り振ってください。[オンライン]」についてのヒストグラム

今後のオンラインでの活動量見込みのヒストグラム

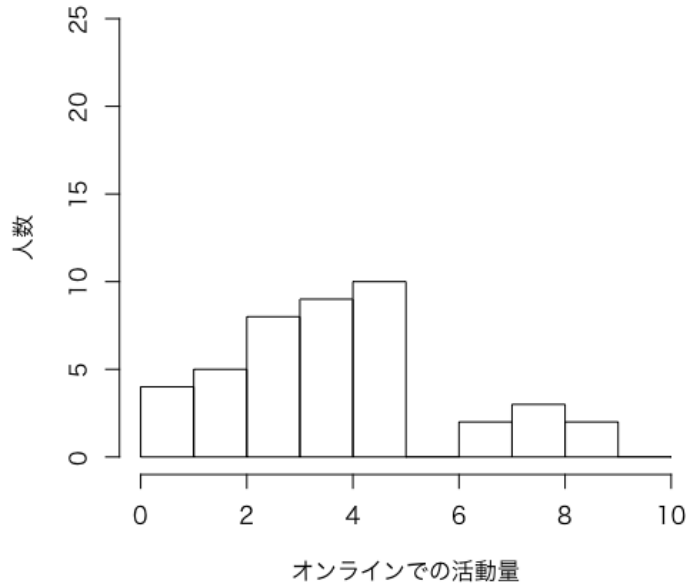


図3：Q22-2 オンライン「今後の見込みについて、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を10としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoomでのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は10になるように割り振ってください。 [オンライン]」についてのヒストグラム

若者の政治関心の高まりのヒストグラム

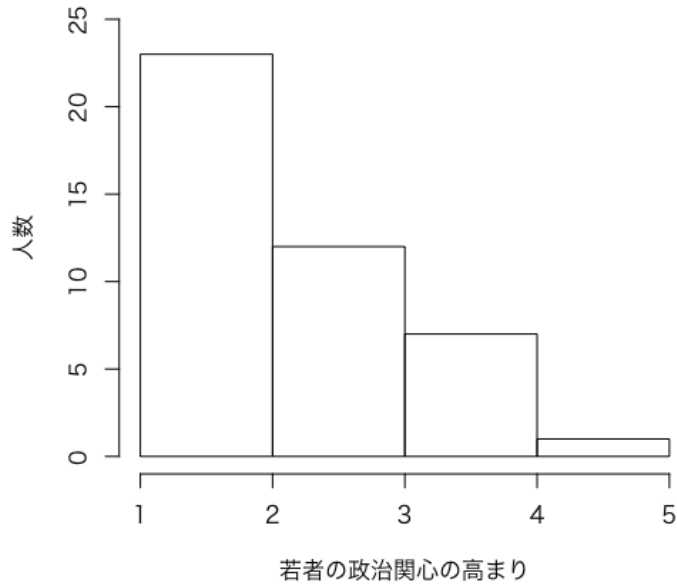


図4：Q23「ご自身の SNS などオンラインでの政治活動を通して、街中での反応や SNS 上でのメッセージなどから、若者の政治・都政への関心は以前に比べてどれくらい高まったと感じておられますか。

全く変わらない=1

どちらかといえば変わらない=2

どちらともいえない=3

どちらかといえば高まった=4

とても高まった=5

5 つの中から、最もあてはまる選択肢をお選びください。」についてのヒストグラム

以下の図5から図8は、年齢をY軸に、各変数をX軸として作成した散布図である。

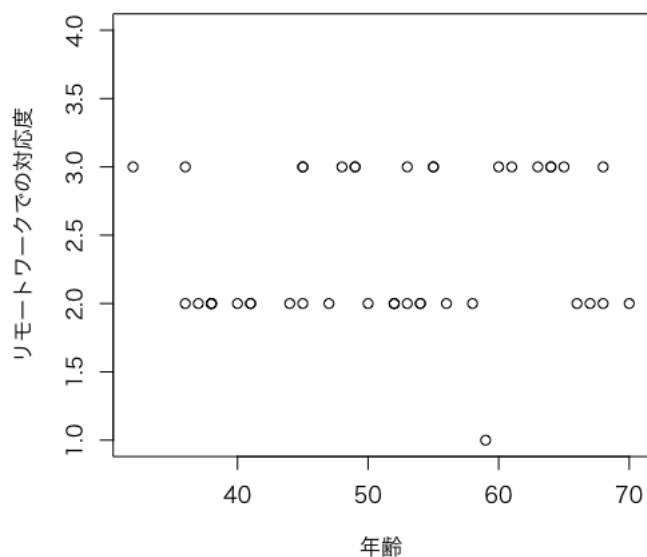


図5：年齢と Q15 「リモートワークの達成度」の散布図

図5から、リモートワークの達成度と年齢の関係では、一見したところ関係がないように見える。

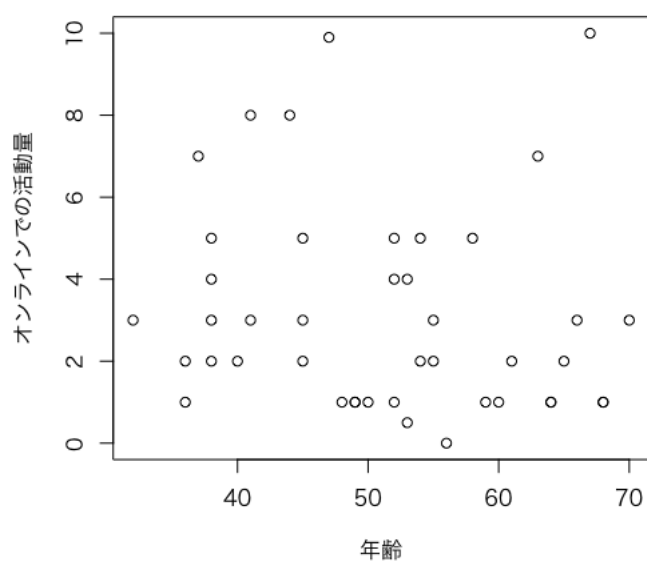


図6：年齢と Q22-1 オンライン「新型コロナウイルス感染症拡大前について、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を 10 としたときのオンラインでの活動量」の散布図

図6から、感染拡大前のオンライン活動量と年齢については、年齢が若いほど活動量があるような関係にみえる。

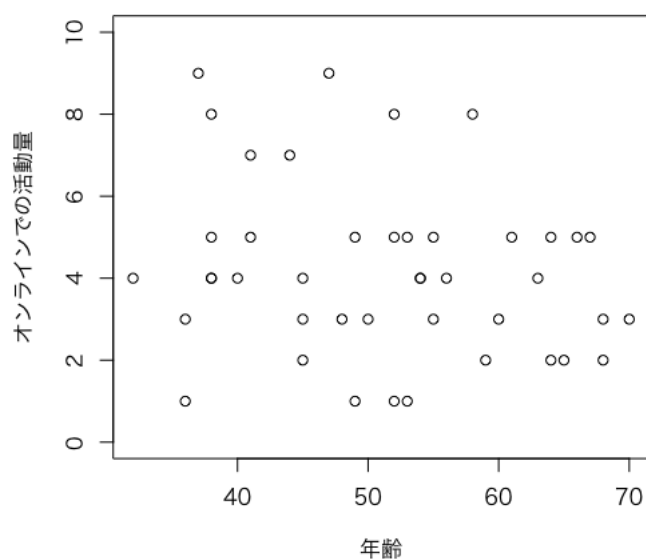


図7：年齢と Q22-2 オンライン「今後の見込みについて、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を 10 としたときのオンラインでの活動量」の散布図

図7から、感染拡大後のオンライン活動見込み量と年齢については、上記の関係がさらに強化されるようにみえる。

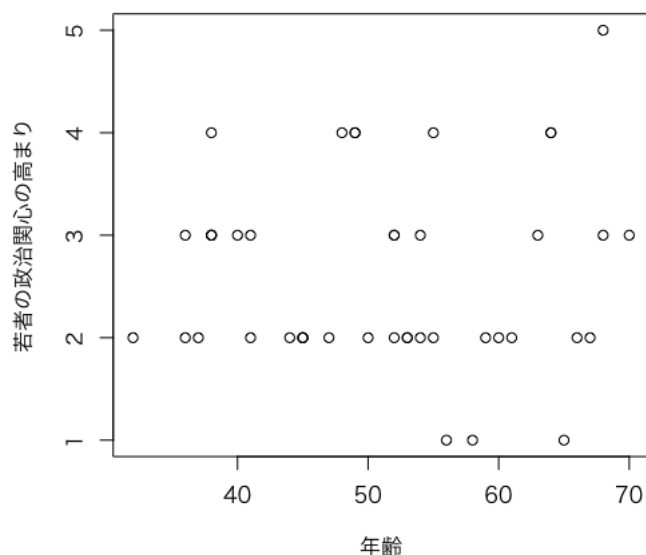


図 8 : 年齢と Q23「ご自身の SNS などオンラインでの政治活動を通して、若者の政治関心の高まり」の散布図

図 8 から、若者の政治関心の高まりに対する感覚と年齢については、相関がみられない。

結果

以下の表 3 は、Q15「新型コロナウイルス感染症拡大により、リモートワークという働き方がる程度普及しました。都議会議員としての活動においても、どのくらいリモートワークで対応できたでしょうか、最もあてはまる選択肢 1-4 をお選びください。」を目的変数に、年齢を説明変数にとった単回帰分析である。

表 3 : 目的変数を Q15、説明変数を年齢とした単回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	2.019	0.411	4.906	1.5E-05
年齢	0.007	0.008	0.876	0.386

表 3 の結果は、年齢の t 値が 0.876 であり、傾きは 0.007 の推定値となる。表 3 の回帰分析は図 5 と対応しているが、リモート枠の達成度と年齢の関係では、

関係ないということが確認できる。

以下の表 4 は、Q22-1「新型コロナウイルス感染症拡大前について、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を 10 としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoom でのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は 10 になるように割り振ってください。[オンライン]」を目的変数に、年齢を説明変数にとった単回帰分析である。

表 4：目的変数を Q22-1 オンライン、説明変数を年齢とした単回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	4.851	1.954	2.483	0.017
年齢	-0.033	0.037	-0.877	0.385

表 4 の結果は、年齢の t 値が -0.877 であり、傾きは -0.033 の推定値となる。図 6 は、表 4 の回帰分析に対応している。図 6 では年齢が若いほどオンライン活動量があるようにみえたが、表 4 から統計的には有意ではないということがわかる。

以下の表 5 は、Q22-2「今後の見込みについて、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を 10 としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoom でのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は 10 になるように割り振ってください。[オンライン]」を目的変数に、年齢を説明変数にとった単回帰分析である。

表 5：目的変数を Q22-2 オンライン、説明変数を年齢とした単回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	6.399	1.604	3.988	0.0003
年齢	-0.043	0.031	-1.408	0.167

表 5 の結果は、年齢の t 値が 3.988 で -1.408 あり、傾きは -0.043 の推定値となる。図 7 は、表 5 の回帰分析に対応している。年齢が若いほどオンライン活動見込み量が増えるようにみえたが、表 5 から統計的には有意ではないことがわか

る。しかし、図6と図7の比較から、この年齢とオンライン活動の関係は感染前より感染後のほうが傾向がより強まるように見え、統計的に有意ではないが、p値が0.167と帰無仮説「年齢とオンライン活動見込み量と関係がない」が成立する確率は低くなっている。

以下の表6は、Q23「ご自身のSNSなどオンラインでの政治活動を通して、街中での反応やSNS上でのメッセージなどから、若者の政治・都政への関心は以前に比べてどれくらい高まったと感じておられますか。最もあてはまる選択肢1-5をお選びください。」を目的変数に、年齢を説明変数にとった単回帰分析である。

表6：目的変数をQ23、説明変数を年齢とした単回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	2.438	0.720	3.386	0.002
年齢	0.003	0.014	0.236	0.815

表6の結果は、年齢のt値が0.236であり、傾きは0.003の推定値となる。図8の散布図で確認されたように、年齢と若者の政治関心に対する感触は関係がないことがわかる。

以下の表7は、Q22-2「今後の見込みについて、あなたご自身の有権者と関わる活動の全体量を10としたとき、オンラインでの活動（SNS、ホームページ、Zoomでのイベント等）に割く量とオフラインでの活動（地域の見回り、集会開催、活動参加等）に割く量の割合は、それぞれ何割くらいでしょうか。※配分の合計は10になるように割り振ってください。[オンライン]」を目的変数に、Q23「ご自身のSNSなどオンラインでの政治活動を通して、街中での反応やSNS上でのメッセージなどから、若者の政治・都政への関心は以前に比べてどれくらい高まったと感じておられますか。最もあてはまる選択肢1-5をお選びください。」を説明変数にとった単回帰分析である。

表7：目的変数をQ22-2オンライン、説明変数をQ23とした単回帰分析

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)
(Intercept)	5.323	0.965	5.516	2.11E-06
Q23	-0.437	0.349	-1.249	0.219

表 7 の結果は、Q23「若者の政治関心に対する感触」の t 値が-1.249 であり、傾きは、-0.437 の推定値となる。p 値が 0.219 であることから、若者の政治関心に対する都議会議員の感触はオンライン活動見込み量に影響を与えない。つまり、都議会議員の今後のオンライン活動量の増加するとしても、それは若者に対する SNS 活動の効果の実感とは関係がない。

結論と含意

本稿は、新型コロナウイルスによる活動自粛以降における、東京都議会議員のオンラインで有権者と関わる活動量と SNS の利用に関する関連性に対する関心から、(1) 都議会議員の SNS の利用は年齢に関連がある (2) 自身の SNS を通じて若者の政治的関心を感じた人ほど、今後のオンライン活動への期待も高くなるという仮説を立てた。

分析の結果、年齢による SNS の利用には差がないということが判明し、(1) の仮説では SNS の利用は年齢に関連があると予想していたが、結果は異なる。これは、都議会議員の最低年齢が 32 歳であり、最も SNS を利用している 20 代以下が調査対象に存在していなかったことが起因すると考えられる。よって、都議会議員の SNS 利用の多様性は年齢によっては説明できないことから、他の説明を行う必要がある。性別や選挙区、ターゲット支持者層などが他の説明変数として適応すると予測できる。

また、自身の SNS を通じて若者の政治的関心が高まったという有効性感覚と今後のオンライン活動への期待は関連がないということが判明し、(2) の仮説では若者のレスポンスを感じた人ほど、今後の見込みへの期待も高くなると予測していたが、結果は異なる。政治家の SNS 利用の動機についてはさらなる研究が必要である。

参考文献

伊藤理史、2017、「日本人の政治的疎外意識 —政治的有効性感覚のコーホート分析—」 『フォーラム現代社会学』(16 巻) p15-28

田中智和、2019、「高校 3 年生の政治意識とメディア接触 (利用) について」 『よ

ろん』(123 卷) p16-24

渡辺祥子、2019、「SNS を情報ツールとして使う若者たち ～「情報とメディア利用」世論調査の結果から②～」 『放送研究と調査』2019 年 5 月号 p38-56